

ようじえんだより 2019年度7月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

7月主題『触れてみる』

主題聖句：まことの光が輝いているからです。 ヨハネの手紙Ⅰ 2章8節

☆ 0～2歳児：神さまに守られている園生活を喜ぶ。絵本や歌を通して言葉の豊かさ
にふれる。保育者の援助を受けながら、自分の思いを伝えようとする。水や砂、土
にふれて感触を楽しむ。

☆ 3～5歳児：祈りたい気持ちがめげえ、表そうとする。たっぷりとした時間の中で
試したり、考えたり、失敗してももう一度やってみようとする。楽しいことを重ね
る中で、様々なことへの興味関心を広げる。砂遊びや造形を通して、創造すること
や表現することを楽しむ。

前任地での衝撃的体験

私の前任地の幼稚園は、子どもが先生を呼び捨てにしたりする光景をよく見かけました(幼稚園の比ではありません)。自由保育を標榜し、自分がやりたいことをとことん追求し、友だちと共にそれを深めていく保育手法でしたが、私には当初それが「好き勝手の放任保育」に思えました。「この子たちの将来はこれで大丈夫なのか…」と20代の頃は思いました。しかし小学生になって先生を呼び捨てにする子どもは誰もいませんでした。子どもたちは、ちゃんと場の空気を読む力が備わっていたのでした。ある年などは市内の小学校の児童会長や運動会の応援団長のほとんどが私の園の卒園生だったこともあり、中学・高校・大学生になってもそれぞれの分野で活躍している様子を聞いたたびに「あれだけ好き勝手に幼児期を過ごしても、ちゃんと育つんだなあ」という不思議な思いと、子どもの発達段階をもっと学びたいと思って、後に大学院教育学研究科で学びました(幼児期の子どもは安心できる環境で、自発的・能動的に過ごすことで自信をもつことが大切なのがここでわかりました)

子どもの言葉の裏にある気持ち

言葉を十分に操れるようになった子どもは、相手の反応を見ながら生意気なことも話し始めるものです。それも成長の証なのですが、子どもが人を呼び捨てにしたり、乱暴な言葉を使ったりすることに大人として抵抗感もあると思います。しかし前述したように、子どもは「この場では(この人には)このように話しても大丈夫」ということが年長さんくらいになるとわかってくるものです。たとえば、今を一生懸命生きている子どもが、「園長！これみて！！」と言ってきた時、それは私のことを友だちのように信頼している証です。「こら！園長先生でしょ！」と注意することは、その時の子どもの気持ちに沿うことを放棄し、子どもはわかってもえなかった気持ちと、自信を失っていくという結果が残るだけです。

どうしても使ってほしくない言葉を発した時には、冷静に子どもの目を見て、低めのトーンで「その言い方はやめて」と伝えると効果があります。しかし何より大切なのは、周囲の大人が尊敬と愛情をもって互いに名前を呼び合う姿を見せることです。 園長：久保田愛策

年間主題『ことばに満たされて～ひびきあう～』

主題聖句：その人は流れのほとりに植えられた木。

旧約聖書 詩編1編3節